



▶問い合わせ 財政課  
☎0287(62)7118

# 市の財布の中身は？

～平成28年度の財務書類を公表(総務省方式改訂モデル)～

市の財政状況を把握するため、新地方公会計制度に基づく財務書類を作成しました。今回は市の普通会計(一般会計と墓地事業特別会計)に係る貸借対照表(バランスシート)と行政コスト計算書についてお知らせします。

## 財務書類とは？

財務書類は、企業会計の考え方を取り入れた「貸借対照表」、「行政コスト計算書」など4つの表のことで、資産・負債の状況や行政サービスの提供にどのくらいの費用がかかったのかなど、財政状況が分かるようになっています。

- 1 貸借対照表 2 行政コスト計算書 3 純資産変動計算書 4 資金収支計算書

上記の2つは市ホームページをご覧ください。

那須塩原市 財務書類 [検索](#)

### 貸借対照表 (バランスシート)

財産の状況を示し、これまでに形成した資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)でまかなったのかを表します。今後の世代が負担する「負債」と、これまでの世代が既に負担した「純資産」が分かります。

<b>資産の部 A</b> 1,894億5,450万円 (これまでに形成した資産)	<b>負債の部</b> 391億 486万円 (今後の世代が支払う額)
<b>1 公共資産</b> 1,674億8,035万円	<b>1 固定負債</b> 341億1,890万円
○固定資産 1,666億2,356万円 (道路、公園、学校などの土地や建物)	○市債 D 291億7,190万円 (翌年度返済分を除く借入金)
○売却可能資産 8億5,679万円 (分譲宅地などの販売している土地)	○退職手当引当金など 49億4,700万円 (全職員が退職した場合の支給見込額)
<b>2 投資など</b> 120億2,222万円	<b>2 流動負債</b> 49億8,596万円
○投資・出資金 11億2,336万円 (公益法人などの他団体への出資金など)	○翌年度償還予定市債 E 46億6,029万円 (翌年度返済分の借入金)
○基金など B 95億3,655万円 (まちづくりや子育て施設の建設など 使い道が決まっている貯金)	○賞与引当金など 3億2,567万円 (翌年度支払い予定の職員のボーナスなど)
○長期延滞債権など 13億6,231万円 (前年度以前の税金などの未収納金)	<b>純資産の部</b> 1,503億4,964万円 (これまでの世代が既に支払った額)
<b>3 流動資産</b> 99億5,193万円	<b>純資産</b> 1,503億4,964万円
○歳計現金 22億7,559万円 (手元にある現金)	
○財政調整・減債基金 C 74億5,610万円 (年度間の財源調整や借入金の返済に備えるための貯金)	
○未収金など 2億2,024万円 (当年度内に収入予定だった税金などの未収納金)	<b>負債と純資産の合計</b> 1,894億5,450万円 (資産の合計 A と一致)

### 行政コスト計算書

保育園の運営やごみの処理、住民票の発行などの経常的な行政サービスの提供にかかる費用と、使用料・手数料などの収入を表します。1年間の行政サービスにかかった経費のうち、人件費や補助金などの資産形成に結びつかない経費と、サービス提供の対価として徴収した使用料・手数料などの収入を対比したものです。どのような経費(性質別)と、どのような分野(目的別)の2つの視点で集計しています。

<b>経常行政コスト F</b> 397億6,480万円			
性質別 (どのような種類の経費に使ったか)	構成比	目的別 (どのような分野の経費に使ったか)	構成比
1 人にかかるコスト 63億4,901万円 (職員の人件費にかかる経費など)	16.0%	1 福祉 H 157億8,074万円	39.7%
2 物にかかるコスト 131億5,859万円 (事務や施設の経費、減価償却費など)	33.1%	2 教育 62億7,029万円	15.8%
3 移転支的コスト I 199億1,189万円 (補助金や給付金など)	50.1%	3 生活インフラ・国土保全 46億 74万円	11.6%
4 その他のコスト 3億4,531万円 (借入金の利息など)	0.8%	4 総務 41億5,095万円	10.4%
		5 環境衛生 38億2,805万円	9.6%
		6 産業振興 26億9,040万円	6.8%
		7 消防 17億7,992万円	4.5%
		8 議会 3億1,840万円	0.8%
		9 その他(借入金の利息など) 3億4,531万円	0.8%
<b>経常収益 J</b> 15億4,416万円			
使用料・手数料、分担金・負担金、寄附金など			
<b>純経常行政コスト (F-I) K</b> 382億2,064万円			
使用料などの収入を除いた経費 (税金や国・県からの補助金などで支払います)			

#### ◆市民1人当たりの行政コスト計算書

- 経常行政コスト 約34万円
- 純経常行政コスト 約32万円 L

市にはどれくらいの財産がありますか？

**1,895億円**です

財産(資産)の総額はAの約1,895億円です(平成29年3月31日時点)。主なものは道路や学校、公園などの公共施設です。これらの財産が、今後の世代に引き継がれます。市民1人当たりの財産は約161万円です。

貯金や借入金は増えていますか？減っていますか？

貯金は増加、借入金は減少しました

貯金にあたる基金(B+C)の残高は約170億円で、前年度と比べて約5億円増えました。また、借入金である市債(D+E)の残高は約338億円で、前年度と比べて約5億円減りました。市民1人当たりの貯金残高は約14万円、借入金残高は約29万円です。

借入金の残高は多くありませんか？

比較的少ない状態です

負債のうち市債残高(D+E)の公共資産に対する割合を「社会資本形成の将来世代負担比率」と言い、15%~40%が平均的とされています。比率が低いほど今後の世代の負担が少ないことを表します。本市は20.2%と比較的低い値です。

市のサービスにはどれくらいのお金がかかっていますか？

**398億円**です

1年間に約398億円Fの経費がかかっています。そのうち約15億円Iを皆さんがサービスを利用する際に支払う使用料や手数料など(経常収益)でまかない、残りの約383億円Kは、税金や国・県からの補助金などでまかっています。

1人あたりではいくらかかっていますか？

**32万円**です

サービスにかかる経費は、使用料などの収入を除くと、市民1人当たり約32万円Lです。

どんな分野にお金がかかっていますか？

目的別では福祉分野が全体の約40%  
性質別では補助金や給付金などが全体の約50%

目的別に見ると、子育て・高齢者・障害者支援などの「福祉」分野Hの経費が最も多く、約158億円で全体の約40%を占めています。前年度と比べて約1億円増えています。また、性質別に見ると補助金や給付金などの「移転支的コストI」が多く、約199億円で全体の約50%を占めています。前年度と比べて約6億円減っています。

※市民1人当たりの金額は、平成29年3月31日の現在人口117,846人で計算しています。